

日刊 發行編輯人 川崎文治 本社下町番地(電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所

常盤新聞

定部金貳圓 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓 廣告費 五字一圓 十字一圓 二十字一圓 三十字一圓 五十字一圓 刊日 禮拜日不刊 祝日不刊 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番

刊夕日八十月三

生徒募集

本科第一部 二ヶ年卒業五十名
本科第二部 三ヶ年卒業五十名
技藝高等科 二ヶ年卒業五十名
全 專攻科 一ヶ年卒業三十名
右各科共入學ヲ許可ス希望者ハ入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ三月末日マデニ本校宛提出ノコト

◎四月四日午前十時入學式舉行
◎學則請求ノ方ハ郵券二錢封入ノコト

文部大臣 認可 平陽女學校
平町橋通小路(電話四四五番)

東京久月出張賣出し ひな人形 御道具一式

出張所 平三丁目郵便局通り
久月雛人形製造元

謹啓陽春の候益々御清祥の段奉大御候從來小生等開業中は多大の御後援に預り有難く御禮申上候、就て今般都合により新妻眼科醫院と明雲堂眼科醫院とを合同仕り明雲堂眼科醫院に於て診療に従事仕るべく候間從前の如く御後援に預り度奉懇願候

昭和五年三月十七日

明雲堂眼科醫院 吉田芳太郎
新妻眼科醫院 新妻幸之助

寄書 救われた人 後藤靜香

(三)

昔から聖者と云われた様な人たちはみんな悦びの人でした。救うとは、悲しみの人を悦びの人に出来ること冷たい人を暖かい人に出来ることです。何に救われるか誰に救われるかは別として兎も角救われた人にはこうした變化が起ります。救われた人の悦びは、他の人から與えられ愛されての悦びでなく、我が内から湧き出する悦びでございます

新學年の御用意

學生カバン
小供用背嚢
筆人紙挾
計數石盤

◇各學科參考書類

マル柴田書店
電話二三四番
九〇五番

正確 体温計
寒暖計 蘭内藥局
電話二〇〇番

梅毒 淋病 専門

皮膚病 婦人病
腸胃病 胃性病
院醫科 村松
(七〇一話電町南平)

美味で 田町
イウキザン
電話三五二番

救われた人は働きの人
心に悦びをもちますならばどうしても、じつとして居られませんが、嬉しい氣持を手の舞ひ足の踏むところを知らずと申します、餘りに嬉しいときは飛び立ちます手をた、きます、併しそれは、動作で毎日躍つたのではありません、深い悦びは落ちついた働きの人をつくります。

救われた人、と騒いで居る間は、まだ熱に浮かされて居るのです、落ちついたとき、しみみ、と悦びを感じ只一人して涙ぐみ、何とかせねば相濟まぬ氣が起ります、それから本當の働きが生れます、誰から強いられるでもなく、働かないで居られず、働くことによつて我が心が満足するので、之こそ神々しい働きのあります

救われた人は、献げる人
どんな宗教にも献金があります、お寺やお宮にお賽銭箱のありますのは参詣人に寄附金を求めて居るのではありません、あのお賽銭は五錢白銅一つ投げて五穀成就や家内安全を祈る様な算盤すくのものでもありません、献金は献身の符號です

原齒科醫院

平町土橋通り電話三一三番

平産婆看護婦學校

校長 清野 キヨ
(電話三〇七番)

第四廿 生徒募集

一、卒業は産婆、看護婦兩科通じて一ヶ年
一、入學資格 高等小學卒業又は同等以上のもの
一、申込期日 四月八日迄

平南町

アステア 熱狂

行興大別持期短(間日二) 日九十二月三

テヌチマ演主(者馭のオデニエチンニ)名原・作大の度一年十社ガルタツビ大

演熱賑一ヤシツイフ・タツカシマ・畫映大弗萬百ニルサーアヴニユ大

館平 設常級高 〇七 特等 〇五 壹等 〇三 普通 料場入

巨額の拐帶金を 遊興費消す

平局の桑原書記補 その額一萬數千圓

大震災に逃走し來り 新田町其他で大豪遊

平町胡摩澤六五半郵便局書記補桑原庸夫(三)は月俸四十七圓の薄給の身を以つて新田町の花柳界を始め其他各所の料理店に出没して盛んに豪遊を極め込む爲め平署にては不審を抱き彼れの行動を忍かに監視中の處三四年來遊興せる金額のみにても新田町三益料理店に四千圓、やぶそば店二千圓、四倉大平館にて二千圓、湯本各料理店にて一千圓の巨額に達し此の外鹽原温泉に旅行せる事等もあり遊興費の出途全く不明なる處から昨日

桑原を 平署に引致 各刑事事懸りにて嚴重取調 べたる結果遂に包むに由な

代理店の事務に當つて居たが關東大震災の折柄加入者の保険料一萬二千四百圓を拐帶行方を晦して平町に逃走し來り傳手を求めて平町役場の雇となり其後平郵便局庶務課に勤務し今日に至つたものにて前記の遊興費は拐帶保険料より支出せる事判明目下は僅かに殘金四十圓を自宅に隠匿しあるのみであつたと

四ツ倉沖大敷網は 許可せぬ縣の意嚮

既設豐間と久之濱の中間で 間隔の接近が障害

縣下における沿海漁業も漸次發達し規模の擴大に伴ひ大なる投資を要する 漁業に遷移せんとしてある殊に近年各濱に目論まれてゐる定置

漁業大敷網或は角網の如きもその一で既許可經營のものに豊間を筆頭として小名久之濱植田等あり更に今回四倉濱においても之を計劃し 漁業組合長

たりし長谷川寅次郎氏の如き在任中極秘裡に縣へ運動をしてあつた即ち同漁業は四倉漁業組合が許可を得次第岩手縣宮古町漁業家坂本嘉平氏をして經營せしむるの内契約の下に縣へ願書を 提出におよんだものも漁場は同濱沖合の魚道で目下經營中にある豊間と久之濱地先の中間にあるものである然るに縣としては既許可漁業權の保護のためその間隔を五千間以上たる事と規定してある而して豊間と久之濱は一萬間

鮮魚取引所の設置は 白銀區民多對が賛成

反對の草野區長に辭職勧告 市場問題益々紛糾

石城鮮魚商組合の新取引所設置により打撃を蒙る平魚市場は右の設置を以て市場法に反し且市場の既得權を侵害するものとして近く

縣當局 抗議を申 し込むことになつたが一方 組合側では何等市場法に低 觸せずとして取引所工事を 進めてゐる、然るに同區長 草野清治氏外數名は右取引 所の設置は同町に取つて衛 生上防火上有害なるものと して昨日午後一時平署に出 願荒井署長に種々陳情した が夫等は縣當局に陳情すべ きものにてお角違ひ也とし て受入れられなかつた之と 同時に同町々議櫻井清、佐 藤清六等の諸氏は取引所設

平署へ 逆戻り

東の間の夢
拘留場を出たのも

過日窃盜罪で平署に捕はれ
微罪なる所より一週間の拘
留に處せられた石川郡澤田
村牛乳當時古城郡内郷村大

字宮居住關根庄吉(三)は昨日午後二時放免され平署を出たが同日夕刻宮に來り空腹に堪へかねて他人の家に侵入飯を食つてゐた處を家人に發見されて追ひ出され逃げ出したが前後より彌次馬の挾撃に會つて遂に捕へられ再び平署へ逆戻りとなつた

平産看卒業生 南町私立産婆看護婦學校

南町私立産婆看護婦學校では明日午後二時より第二十三回卒業證書授與式を舉行するが卒業生左の如し
△産婆科(イロハ順)五十
嵐キツ、新妻タマ、新妻マツ、小野千代乃、小島キヨ、渡邊秋世、吉田トミ、吉田テル、米倉サツキ、田部マサ子、高堀初枝、田久勝子、生田目ツメ、永井芳子、長瀬フミヨ、村上政子、遠藤ミツ子、矢野キセ、山田ミツ、増子トリ、松本ヒメオ、駒木根あき、合津タヘ、青木あき、佐藤チヨ、三瓶サツヨ、末永ミツ、鈴木ハナ(以上二十八名)
△看護婦科(イロハ順)五十
十嵐キツ、早坂キヨシ、長谷川キヌ、新妻マツ、新妻タマ、大森孝子、大和田アサノ、小島キヨ、和知ミツ子、吉田テル、米倉サツキ、龜岡ハナ、田部マサ、立花美代、根本トミ、遠藤ミツ、國井サトミ、熊坂ヨシ、矢野キセ、山田ミツ、山城キキ、松本エ子、吉市トキ、合津タヘ、淺井清子、安藤ふゆ、佐藤クシ子、佐藤ハナ子、酒井チヨ子、三瓶サツ子、佐藤キキ、坂本ツツ子、宮田トク、坂本正子、篠原カツ、穴戸操、平子トラヲ、樋川ハルヨ、末永ミツ、鈴木ハナ、鈴木アサ(以上四十三名)

入學兒童一 持つ母親へ

平第二小學校長 佐藤一氏談
新學期はいつも傳染病殊に學校で接觸して移る傳染病の麻しん、百日咳、水痘、耳下腺炎等の流行する時期ですから、學校から歸つたら、うがひすること、手指をすぐ洗はせることすべて清潔の注意が肝要です、すべて兒童の心身は未熟であつて

發達の 域に向ひつ

あるものですから、これを善導するためには衛生的注意を拂はねばなりません唯これを學校のみに任せるとはよくないので家庭においても注意して教育しなくてはなりません。それに學校衛生といふとよく

教育を 學校におい

ても家庭においても行ひ單に詰込主義の教育を行つてはなりません、身體的に顧慮しない教育は何にもなりません、それ故小學校一年生時代から家で復習させることはやゝもすると健康を害することになりますからその程度を考へねばなりません

子供に 予備的の頭の無いもの

が、あります、いはゆるまだこれだけに智育が發達してゐないのでこれを家庭で覺えが悪いからといつて小言ばかりいつて無理に教へ込まうとするのはよろしくありません、必ず

身體を 弱くして丁

ふ基を作るやうなものです、かういふお子さんはもう少しこれらに教育を延した方がよろしいのです、殊に必要なのは精神衛生といふことで、もしも注目の深い母親であつたらよく學校の授業など參觀する場合自分の子

場合に は特別學級

にお願ひするか又精密なる身體検査の結果を待たねばなりません、ツエルコー氏は兒童の成績が著しく退歩した場合には何等かの病變を身體検査によりて發見してこれを除くことによつて學校が兒童に與へた

困難は 多く消失す

るものである、とまでいつてをります、ですからはじめてから兒童が學校の授業に疲れて歸るやうな場合又學校授業を嫌がるやうなとき

父子公判

けふ平支部で
放蕩無頼の長男勝衛を慘殺して味噌桶に入れ二ヶ月間も土藏の底に埋て置いたが遂に發覺に及んだ既記石城郡植田町大字仁井田父下山田寅市(三)並に次男武(九)にかゝる殺人事件の公判は

今十八日午前十一時より平支部において開廷された